

		自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	
[生活習慣の確立] 生活習慣の確立ができておらず、学習に対する目的意識が低い生徒が多い。	(全体レベル) 全教職員の共通理解のもと、家庭・専門機関などとの連携を密にして、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。  (下位組織レベル) ①いじめの早期発見・対応 [生徒指導課] ②交通安全教育の徹底 [生徒指導課] ③欠席者の減少 [教務課] ④生活習慣の確立 [保健厚生課] ⑤実践力を育む人権教育 [人権教育課]	<b>評価指標</b> ①-1 挨拶運動実施率 90% ①-2 個人面談の実施回数 3回 ②-1 通学使用車両点検回数 3回 ②-2 交通事故(加害者)発生件数 0件 ③-1 出席率 90% ③-2 生徒の授業中での充実度 80% ③-3 要補講生徒数の割合 30% ④ 肥満度50%以上の生徒数割合 8% ⑤ 人権教育研修会の実施 12回	<b>評価指標の達成度</b> ①-1 毎日、挨拶運動を実施できた。 ①-2 毎学期において個人面談を実施した。 ②-1 毎学期において車両点検を実施した。 ②-2 交通事故は1件(物損)発生した。 ③-1 出席率は89.2% ③-2 「とても」と「まあまあ」を合わせて94.3% ③-3 要補講生徒は15名で全体の38.5% ④ 肥満度50%以上の生徒数割合は15% ⑤ 人権教育研修会を回覧形式も含めて12回実施した。	(総合評価) B  (所見) 本年度は生活習慣が確立されていない生徒が多数入学したことに加え、2,3年生に中だるみの生徒が多数見られたため昨年度より出席率が-3.2%、要補講生徒の割合が+22.5%と大幅に上昇した。一方で真面目に授業に取り組む生徒も多数おり、生徒の学習に対する意識に大きな個人差があるように思われる。	○ 様々な生徒がいる中で、毎日の挨拶運動や各学期に行われている個人面談は、生徒理解につながる良い取り組みになっているので、今後も継続してほしい。  ○ 今年度の特徴として、生活習慣が確立していない生徒が多数入学したということであるが、生徒一人一人を大切に、生徒の学びたいという気持ちを育む指導をお願いしたい。  ○ 肥満度50%以上の生徒数割合については、学校としてできることは限られているかもしれないが、目標が達成できるように引き続き取り組んでほしい。	○ 中学時代に不登校だった生徒も多い中、毎日登校時に声をかけることで、生徒とのコミュニケーションも図れ、自ら挨拶をする生徒も増えてきている。個人面談では、保護者と連絡を密に取り、信頼関係を築き、相談しやすい環境を作っていきたい。  ○ 今年度は生徒の出席率の減少、要補講生徒数の増加がみられたので、来年度は年度当初から生徒に啓発し出席率の向上に努めたい。一方で皆勤で登校している生徒もいるので、さらに授業改善に取り組み、授業の充実度を向上させていきたい。  ○ 健康力アップ作戦や保険だよりを活用して肥満度50%以上の生徒数割合を目標値に近づけたい。	
		<b>活動計画</b> ① 挨拶や面談を通じて、生徒との信頼関係を構築し、相談に乗りやすい体制を構築する。 ②-1 原付や乗用車などの通学使用車両の点検を行い、整備不良車、違法改造車の使用を禁止する。 ②-2 学校周辺の巡視を徹底する。 ③-1 欠課時数が基準を超えた時の補講を徹底する。 ③-2 魅力ある授業づくりを実践し、出席率の向上につなげる。 ④ 生活習慣改善プロジェクトを実施する。 ⑤ 毎月、教員対象の人権教育研修会を実施する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 毎日の挨拶運動や、個人面談を通して生徒との信頼関係を構築できた。 ②-1 毎学期において車両点検を行い、整備不良の車両を改善するよう指導することができた。 ②-2 生徒指導課にて学校周辺の巡視を行い、事件や苦情はなかった。 ③-1 要補講生徒全員が期間内に補講を完了させ、進級することができた。 ③-2 出席率は前年比2.5%減少した。 ④ 2学期中に生活習慣改善プロジェクトの一環として、生活リズムチェックを実施した。 ⑤ 人権教育研修会を回覧形式も含めて12回実施した。また、人権教育合同授業実施にあたり教職員対象の事前研修を実施した。				
[進路意識の醸成] 進路に対する意識が希薄な生徒が多く、多様な生徒に即した進路指導と関係機関との連携・協力が必要である。	(全体レベル) (i) 生徒に卒業後の目標を持たせ、生徒の基礎学力を定着させるとともに、「主体的・対話的で深い学び」の推進を図る。  (ii) 定時制単独の求人を獲得するとともに、キャリア教育を推進する。  (下位組織レベル) ①個性・能力の伸張と適切な進路サポート [進路指導課] ②進路情報の収集と確実な伝達 [進路指導課] キャリア教育を実施 [進路指導課] ④学習意欲の喚起と基礎学力の定着 [教務課] ⑤HPを通じて、学校の情報を発信 [情報課]	<b>評価指標</b> ① 校内進路説明会実施回数 2回 ② 求人情報収集 90%  ③進路講演会実施回数 1回 ④-1 教師の授業が分かりやすいという生徒 90% ④-2 基礎学力コンペの全学年平均点 60点 ⑤ 各学校行事の広報活動 実施後5日以内	<b>評価指標の達成度</b> ① 校内進路説明会を2回実施した。 ② ハローワークからの求人を毎月生徒に情報提供した。 100%  ③ 進路講演会を1回実施した。 ④-1 授業が分かりやすいという生徒は93.3% ④-2 全学年平均点は目標には届かなかったが昨年度より少し上昇した。 ⑤ 活動風景の写真をコメントとともに3日以内にHPにアップできた。	(総合評価) B  (所見) 本年度は新型コロナウイルスの蔓延の中、校内進路説明会、進路講演会ともに予定通り実施できた。また、普段の面談や、進路相談をこまめにするにより生徒の意識付けを図った。進学・就職いずれにも必要な基礎学力を身につけさせるために実施している基礎学コン	○ 今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響がある中、様々な行事の取組がなされ、その成果が現れていると思う。世の中には様々な職業や職種が存在するが、生徒達は自分の生活と関連のある職業しか知らない傾向が強いので、生徒の職業観や卒業後のキャリア形成に向けて、今後も様々な取り組みを継続してほしい。  ○ 進学・就職にかかわらず、生徒自身の進路を決定するにあたり、基礎学力は非常に重要である。次年度も引き続き生徒の基礎学力向上に向けて取り組んでほしい。	○ 生徒の進路実現に向けて、進路指導課が中心となり進路ガイダンスや職業体験などを計画し、生徒自身に進路意識や職業観などを身につけさせようとしている。次年度は、本年度実施できなかった参加体験型の行事を実施し、生徒の意識高揚につなげていきたい。  ○ 基礎学コンペを通じて、基礎学力を身につけることの重要性を理解させていきたい。今年度は平均点、出席率ともに増加しているので、成果が上がっていると考えられる。	
		<b>活動計画</b> ①-1 校内進路説明会を計画的に実施する。 ①-2 個別に進路相談を実施する。 ②-1 ハローワーク、全日制就職課と連携しながら定時制単独の求人を獲得するために職場訪問を計画的に実施する。 ②-2 進路情報の必要な生徒に対し、個々のケースに応じた個別対応を実施する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 令和3年6月22日と令和4年2月9日に進路説明会を実施した。 ①-2 各学期ごとの担任の面談後に、進路相談を受けた。 ②-1 ハローワーク鳴門、全日制就職課と連携し、職場訪問を実施し、定時制の単独の求人票を獲得した。 ②-2 ハローワーク鳴門への訪問、求人情報の収集、情報交換を行い、卒業予定の生徒以外に対しても個別に支援を行った。				

		<p>③-1 外部講師を活用したキャリア教育を実施する。</p> <p>③-2 運転免許など、就職にも有利である各種資格取得を奨励する。</p> <p>④-1 読み書き計算といった基礎・基本的な学力の底上げを図る。</p> <p>④-2 3年次における進路意識の向上と学習意欲の拡大に努める。</p> <p>⑤ 各学校行事終了後、活動記録をHPに速やかにアップする。</p>	<p>③-1 令和3年11月16日に外部講師による就職に関する講演会を実施した。</p> <p>③-2 運転免許の積極的な取得を奨励した。卒業時に美容師での就職を希望する生徒に対しては、徳島県美容学校通信制の受講を奨励した。また、卒業時に介護職員での就職希望者に対しては、介護職員初任者講座の受講を奨励した。</p> <p>④-1 数学や国語の時間を中心に、基礎・基本的な読み書き計算に取り組んだ。</p> <p>④-2 進路関係の行事や個別の進路相談への対応を通じて進路意識の高揚に努めた。</p> <p>⑤活動風景の写真をコメントとともに3日以内にHPにアップした。</p>	<p>べにおいて、昨年度より平均点、出席率ともに増加した。低意欲者数も減少しており、生徒の学習への動機付けには効果が出ていると思われる。</p> <p>行事・活動記録を昨年度よりも速やかにHPにアップできた。</p>	<p>○ 授業が分かりやすいと答えた生徒が93.3%もいるのは、とても素晴らしい数値である。普段の先生方の努力のおかげだと思うので、さらに創意工夫をお願いしたい。</p> <p>○ 学校の取組を広報することはイメージアップにもつながるので継続してほしい。</p>	<p>○ 生徒一人ひとりの実状に合わせた教材研究を行い、生徒が将来の目標を見つけ鳴門高校定時制に来てよかったなどと思える、授業や学校行事が実施できるよう教職員一同で取り組んでいきたい。</p> <p>○ 次年度も引き続き、学校行事を素早くHPにアップできるよう努めたい。</p>
<p>[主権者意識向上]</p> <p>主権者意識を高める教育を推進する。</p>	<p>(全体レベル)</p> <p>主権者意識を高める教育を推進するため、公民科をはじめとした各教科の授業やホームルーム活動、学校行事等の充実を図る。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①自ら考え、自ら判断するための、基本的な事項を理解する。 [公民科]</p> <p>②主権者意識を高めるために、授業内容、行事等の精選や、教育課程の作成を行う。 [教務課]</p> <p>③HRの時間を活用し、主権者意識を高める活動や、学校行事を実施する。 [特別活動課]</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>① 主権者教育に関する特別授業の後、アンケートを実施し、「政治や選挙への関心が高まった」と回答した生徒の割合 65%</p> <p>② 主権者教育に関する特別授業の回数 1回</p> <p>③ 教職員対象の研修の回数 1回</p> <p><b>活動計画</b></p> <p>① 毎時間、ニュースを発表させることで、時事問題に対して、主権者として自分の考えを持ち、それを表現できるように努める。</p> <p>② 学校行事や教育課程の見直しを行い改善に努める。</p> <p>③-1 HRの時間に、グループでの話し合いなどを通じて、自分の意見や考えを他人に伝えられるように努める。</p> <p>③-2 外部講師の招聘など、専門家を活用しながら主権者意識の向上に努める。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>①主権者教育に関する特別授業の後、アンケートを実施し、「政治や選挙への関心が高まった」と回答した生徒の割合 61.5%</p> <p>②主権者教育に関する特別授業の回数 1回</p> <p>③教職員対象の研修の回数 1回</p> <p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>①毎時間、ニュースを発表させることで、時事問題に対して、主権者として自分の考えを持ち、それを表現できるように実施した。</p> <p>②改善のための教員間での話し合いを継続中である。</p> <p>③-1 ③-2 今年度は、徳島文理大学の吉川友規先生を招き、全教職員と全学年の生徒に対して講義をして頂いた。講義の中では、①こんな時、どうしますか？②主権の意味。③投票に行くことの重要性。④投票に行かなければ・・・⑤投票の方法。⑥その他の主権の行使。の6つの内容を通して「政治とは何か」、「選挙の意義とは何か」について理解を深めることができた。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>主権者意識を高めるために、講演会や授業を通して、主権者意識の醸成が図られつつある。特に今年は、新型コロナウイルスの蔓延による社会的混乱と社会不安が渦巻く中、国民1人1人の主権者意識が改めて試された年となった。教員対象の主権者教育研修会は、生徒対象の講演会と併用する形で実施し、社会における諸問題について生徒とともに考えることが出来た。</p>	<p>○ 選挙権年齢の引き下げ及び成人年齢の引き下げに伴い、高校教育が担う役割の重要性が高まってきているので、主権者として、消費者として自立した個人を確立することは非常に重要である。一部の学年ではなく学校全体として取り組んでいるのはとても評価できる。</p> <p>○ 生徒にニュースについて発表させることは、社会について考えるよい機会になり、とても素晴らしい取組だと思う。今後も継続してほしい。</p>	<p>○ 主権者教育の講演会や消費者教育の講演会なども学校行事の重要な柱として、しっかり定着してきている。定時制の生徒はアルバイトを通して社会と関わる人が多いのでさらに主権者意識や消費者意識を高めるような取り組みを工夫していきたい。</p> <p>○ 次年度も生徒に社会について考えさせる授業や行事をより工夫して、実践していきたい。</p>

\* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった